

Calcon 2015 ハフマンシンポジウムに参加して

2015 年 7 月 12–16 日に、アメリカカロリメトリー会議 (Calcon 2015) がメリーランド州ボルティモアで開かれました。メリーランドは東部 13 州の一つで、大西洋に面し、チェサピーク湾を囲む州です。ボルティモア市は湾の一番奥まったところにあり、ワシントン DC と近く、また近くには熱測定標準物質や中性子散乱施設で我々にもなじみの深いゲイザースバーグの NIST (旧 NBS) があります。今回の学会は湾の奥のさらに奥まった Inner Harbor に面した Hyatt ホテルで行われました。今年は第 70 回の Calcon であり、ハフマン賞の第 60 回目にあたりますので、10 年ごとに行われるハフマンシンポジウムが開かれました。これは過去にハフマン賞を受けた研究者に参加を呼びかけて、「その後」を語ることもできるように配慮したシンポジウムです。参加はもちろん自由です。

今回の Calcon には筑波大学から齋藤一弥先生と大阪大学から東信晃さんが参加され、最新の研究成果を発表されました。本格的な Calcon 報告は東さんが書かれますので、本稿はほんの Calcon2015 ハフマンシンポ印象記とご理解ください。

会期中午前の時間はプレナリーとしてハフマンシン賞関連の講演と他の受賞講演にあてられ、最初にコチェアマンの C. A. Minetti 教授と D. Remeta 教授の名で Remeta 教授が Calcon とハフマン賞の歴史を 1 時間にわたって振り返りました。Rossini 博士、Waddington 博士、Furukawa 博士、Armstrong 博士らの懐かしい名が出ました。これらの先達は、関先生の時代 (1960 年代) に来日され、大阪で熱化学と化学熱力学の講演をした方々です。

今年のハフマン賞受賞者 Ernesto Freire の受賞講演 (75 分) と過去の受賞者 (D. Frenkel, Maria das Dores Ribeiro da Silva, M. T. Record, R. M. Izatt, A. Navrotsky, T. Matsuo, J.-P. E. Grolier, および E. Wilhelm) の 60 分講演が毎日 3 件ずつプレナリーとして行われました。わたくしは 10 年余り前にハフマン賞を頂きながら、何のお返しもできていないという負い目の気持ちがありましたので、今回積極的に参加し、ゴム弾性の熱測定実験と、水素結合系のトンネル準位についてごく短く量子力学的な話をしました。後者は受賞研究の延長にあるものです。

会場となった Inner Harbor は観光スポットになっており、歴史的な船が係留されて、船舶博物館になっています。広場では大道芸人が観光客を楽しませていました。添付した写真はレストランの並びにある手相見のブースで、「1 回 5 ドルから」とあります。わたくしの兄が 50 年も前にジョーンズホプキンス大学でポスドクをしたことがあり、Inner Harbor は当時の港町によくあった、いかがわしいブロックだったそうです。その時代にも手相見が店を開いていたそうで、この写真の店がその続きかどうか確かめるべくありませんが、アメリカ文化の愛すべき一側面を示して面白いと思います。Inner Harbor は再開発されて、一流ホテルで学術集会が開かれるようになったというわけです。

(松尾隆祐)

